

平成30年度  
文化庁地域日本語教育実践プログラム  
～ともに学ぶ日本語支援事業～

外国につながる子どもたちの  
ことばを育むための  
ともに学ぶサポーター養成講座

報告者：池田恵子 (NPO法人教育活動総合サポートセンター)

加藤真帆子 (NPO法人日本語・教科学習支援ネット)

古屋恵子 (NPO法人日本語・教科学習支援ネット)

# 1. 講座の目標

外国につながる子どもたちの支援について、彼らの  
保育園や幼稚園・小中学校での生活に関連づけ、  
成長・発達の視点をもって理解し、具体的な関わり  
方、支援のあり方、ネットワークも意識しながら  
検討する

# 2. 講座の計画

- モデルプログラムを参考にし、各講座が相互に関  
連して、講座の全体目標に合致するよう企画
- 就学前の子ども→小学生→中学生→中・長期的視  
点→地域のネットワークという流れで各講師に依頼
- 講義とワークショップ(WS: テーマに関連した実践  
的活動、課題の認識、情報の共有)の2本立て

## 3-1 内容 → 受講者の様子

- 第1回：日本生まれ・幼少期来日の子どもの言語習得の課題・プレスクールの実践例  
→学齢期における特別支援との関連性を意識
- 第2・3回：第二言語での学習の困難さ・小・中学生への具体的な支援・工夫・評価・教材案  
→WSより、もっと講義を聞きたかった
- 第4回：子どもの成長・発達を踏まえた中・長期的支援の実例・現在の支援計画設計  
→必要性実感
- 第5回：子どものライフコース・地域ネットワーク・各地域の取り組みの共有  
→必要性実感

# 3-2 ワークショップの様子

## 第2回

教科書から、  
“比較”の指導  
に使えるような  
写真や絵や図  
を探す

## 第4回

指導している児童生徒の  
JSL評価参照枠のステージ  
と指導時間は？

受講者の指導対象児童生徒の日本語ステージと指導時間

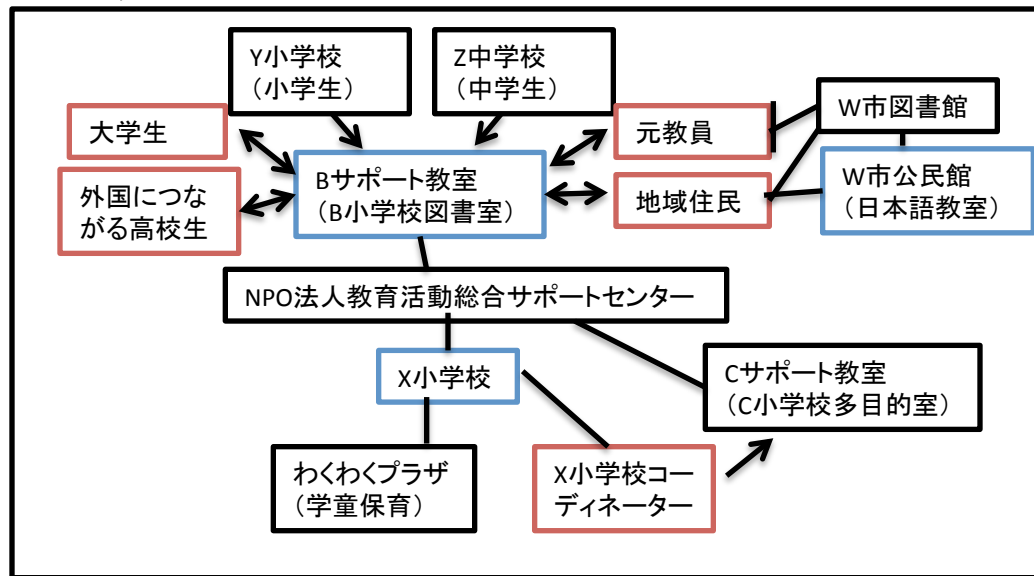
学年(小)	1				2				3				4				5				6			
ステージ	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
話す		2	2			1			1						2	1			1	1	1	1		
読む	1	3				1			1					1	1	2			2				1	1
書く	3	1				1			1					1	3			1	1		1	1		
聴く		2	2				1		1						1	2			1	1		1	1	
指導時間/週	4, 4, 2, 4				4				1				1, 2, 5, 2				2, 2				5, 10			

学年(中)	1				2				3			
ステージ	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
話す	1	2						1			1	1
読む		3					1				1	1
書く	1	2					1			1		1
聴く	1	2					1				1	1
指導時間/週	4, 12, 10				3				4, 2			

# 第5回

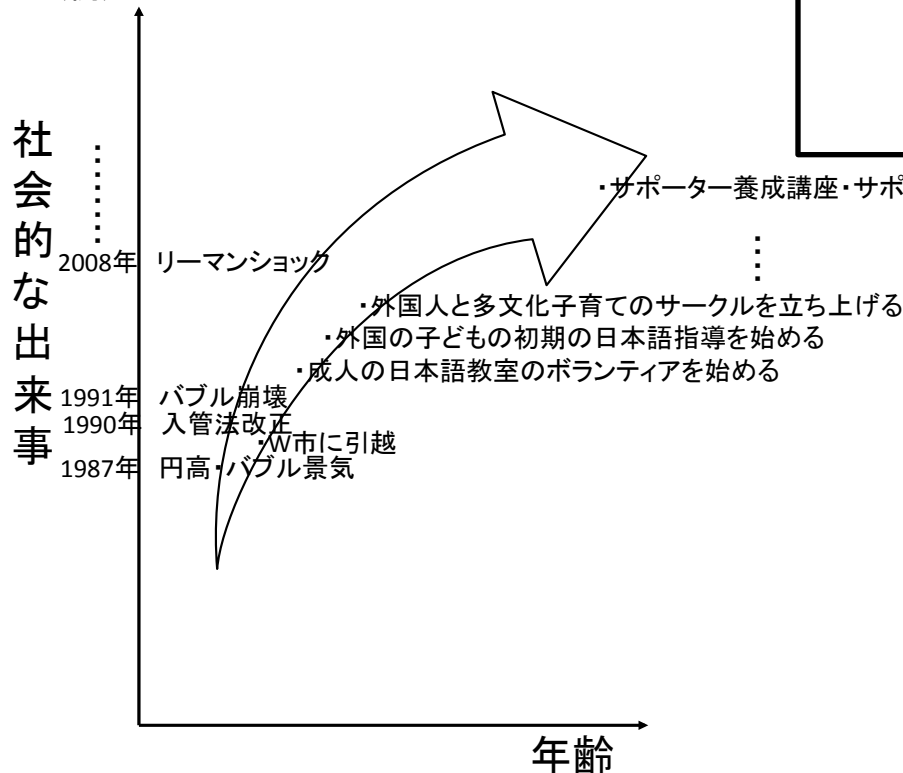
●子どもの周囲にある「支援」を考えよう  
私の支援の現場を描いてみよう

(例)



●「自身の成長」をふりかえろう

(例)



## 4-1. 成果A,B と 課題(★)

A: モデルプログラム活用により、受講者・講師にも  
目的や全体の流れを明確に示せ、昨年度より、申  
込者数が大幅に増加

(養成講座を想定していたが、支援経験者が多く、  
ブラッシュアップ講座になってしまった)

B: 県内外からの多様な立場の参加者の学び合い  
(厳しい参加条件や拘束力がない講座なので、参  
加意欲維持の難しさ(後半は欠席が目立つ))

★広報・受付      ★事前にニーズ把握の必要性

★ニーズ(具体的な支援の工夫・実践例の紹介)と支  
援者の視野を広げる活動(目的)のバランス

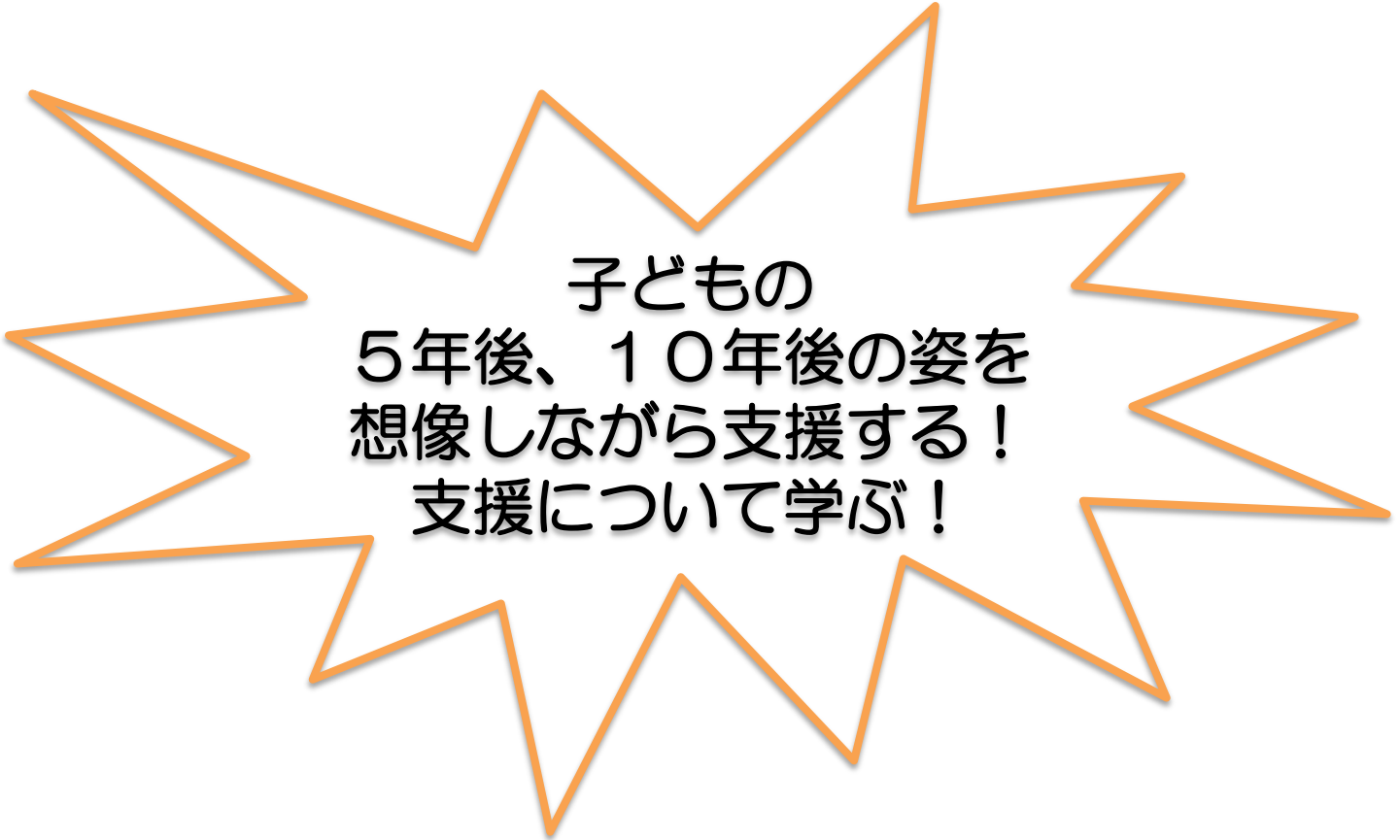
## 4-2. 成果C,D と 課題(★)

C:自身の支援のふりかえりができたという回答多

D:子どもの成長や発達を意識しながら支援すること、  
ネットワークの重要性が認識されたという回答多

★支援開始後、フォローアップ講座実施の重要性

★今までは、文化庁の委託事業として実施できた  
(資料代として500円、欠席者には資料を郵送)が、  
今後の実施体制は未定



子どもの  
5年後、10年後の姿を  
想像しながら支援する！  
支援について学ぶ！